

Food for Thought

責任ある持続可能な生活

活動 4

責任ある持続可能な食べ物を選択

グラフィック オーガナイザー：
ベン図

活動に関する SDG



目標

この活動は、生徒たちによる、ライフサイクル全般を考慮した食品の選択や、食べ物の好みを検討・探求するのを推奨するために、ベン図を使用する。

必要な資料

- ・ 画像一式
- ・ 教室で使用されるベン図のテンプレート

活動を行う方法

1. 生徒たちはグループで作業を行う (3 ~ 4人)。
2. 教室で使用される画像一式とベン図の白紙テンプレートが各グループに与えられる。ベン図には、一部が重なるように2つの円 (A と B) が描かれ、重なった部分は (C) とする。
3. 生徒たちは、原産地、農業栽培・生産、食品加工、梱包、流通、調理と消費、また賞味期限切れの食品などの画像を用いて、これらについて考える。

学習活動	グラフィック オーガナイザー	APLM 階段	説明	テーマ / トピック
4	<p>ベン図</p>	II	ベン図はシンプルかつ、2つの項目の類似点と差異を検討する際に効果的なオーガナイザーである。それぞれが1つのセットを表している、通常は重なりのある曲線 (通常は円) から成る。	責任ある持続可能な食べ物の選択

対 象：T 大学 (教育学部) 2 年生 (78 名)

授業名：小学校家庭科教育法 (2 単位)

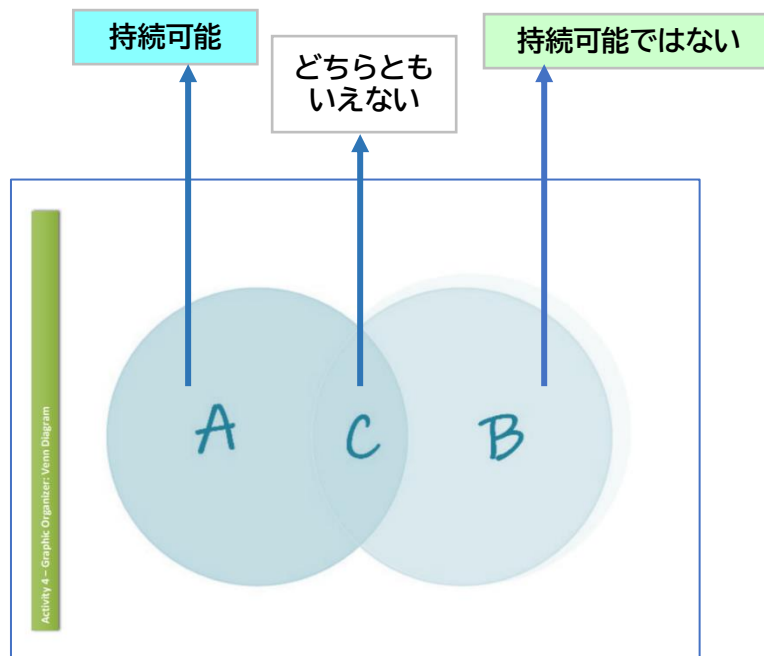
授 業：5 / 15 回

内 容：「B 衣食住の生活」と「C 消費生活・環境」の内容の関連を図る授業を考える～写真や動画等の活用～

授業の構造 (PBL)

問 題	写真や動画で学習課題 (問題) を見つけさせるには、どんな授業の工夫をしたらよいだらう？
情 報 証 拠 の 提 供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を活用した授業の例と活用する思考ツール (マトリックス) 紹介 (hink-Pair-Share の手法) ・ フォトランゲージの手法を用いた授業の例と思考ツール (Y チャート) 紹介 (Think-Pair-Share の手法)
推 論	Food for Thought の活動 4 フォトランゲージの手法で思考ツール (ベン図) に考えを整理し、グループで共有する中で、教師の指導上の留意点について考察する
解決策 まとめ	多様な見方や考え方を引き出せる動画や写真は？ 多様な見方や考え方が出た際の収束の仕方は？

Activity 4 - related images



◆活用した写真



+



基本の8枚（左）に8枚の写真（右）を加えて持続可能とは何かを考えられるようにした。

◆学生の話し合い（推論）の例

Card 1 (Top Left): 農作物の振り分けは苦労した。持続可能なんて言うものはない。日本は人口減だが他は人口が増加。地球を傷めずに食料確保するものはない。新しい方法が必要

Card 2 (Top Right): アフリカの一部では飢餓状態だ。例えばニワトリを放し飼いで飼うとして効率的に卵の生産ができない。ゲージでニワトリを飼育するのは仕方ない。アニマルウェルフェアでないため？

Card 3 (Middle Left): 人が手をかけずに育てれば持続可能だ。でも大量生産ができず、食糧不足になる。今は、大量生産が可能だから飢餓の傾向が限られている。ニワトリは仕方ないかもしれない。人口増加も止められない。

Card 4 (Middle Right): 生産や輸送中に発生するガスや石油を使うのは持続可能でないとして分類した。持続可能でない物が多い。自給率が低い日本と高い国では分け方が違うはず！自給率の高い国の生産はどんな工夫を？自給率をあげる政策がある？

話し合いで気が付いたこと（一部）

食の倫理、持続可能の捉え方で分け方が違ってくる。持続可能の定義をしないと分けられないのではないかという意見がでた。でもそうすると分け方がほぼ同じになる。多様な意見や考え方が出ないから授業が面白くないかもしれない。新たな発見も少ない。持続可能かどうか子供にジレンマを持たせる？

このコンテンツを授業で活用するとしたら？（一部）

ニワトリのように相反する2枚の写真を入れる（持続可能とそうでない例）その理由は日本の子供はゲージでニワトリを育てるのが普通だと思っているから。グループで分類させると個々の子供の考えが出ない。Think-Pair-Shareの話し合いはよいが子供のいろいろな意見を一つにするのが難しい。

◆家庭科教科書（開隆堂出版）の「9 持続可能な社会を生きる」の題材でTool「活動4 責任ある持続可能な食べ物の選択」のToolを活用した授業の流れを考えよう。（授業後の課題として出題）

教科書P124-125



課題として提出された事例※指導案の作成に慣れていない学生には指導の流れは話すように記述してもよいとしている）

題材名	持続可能な社会を生きる「責任ある持続可能な食べ物の選択」	
指導計画	2時間扱い 1時間目 Tool「活動4 責任ある持続可能な食べ物の選択」で持続可能について考える。写真が多いと考えが散らばるので相反する写真を加えて問題に気づくようにする 2時間目 持続可能な社会にするために自分の家でできることを考え、教科書 P124-125 を見て計画を立てる。あとで発表会をしたい3時間扱いになる？	
指導の流れ	導入	(Think) Tool の写真とペン図を児童のタブレット上で操作できるようにしておいて、写真を整理して、分けた理由を書くように言う
1時間目	展開	(Pair-Share) 隣の人と自分の持続可能についての考えを紹介する (Share) 全体で考えを発表して、自分と違う考えの人にどうしてそう思うかを聞くようにして、分け方の理由を言わせる。フライドチキンや卵を食べたことがない子供はいないと思うので、ニワトリの飼い方について取り上げて、ゲージと平飼いの違いを発表させたり、調べたりさせて「アニマルウェルフェア」について知る
	まとめ	(Share) 食べ物を選ぶときは、どんなことに気を付けていきたいか発表する